

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470800287		
法人名	特定非営利活動法人しらゆり		
事業所名	グループホームしらゆり竹田		
所在地	竹田市大字竹田町279-1		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	令和5年8月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年3月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「馴染みのある土地で穏やかに暮らしたい」このような利用者の思いを尊重し、一人ひとりが自分らしさを失うことなく安心して生活できるよう、日々の関わりの中で利用者をサポートしながら共に笑ったり、共に喜んだり、共に悩んだり、信頼関係を築きながら家族のように過ごせる時間を大切にしています。コロナ感染が広がる前は、竹田ならではの行事(岡城桜まつり、大名行列見学、竹楽等)に参加したり、敬老会での近隣住民とのふれあい、馴染みの美容室利用など、地域との関係が途切れないよう支援を行って来ました。また、毎日の楽しみである食事は三食とも職員の手づくり料理を提供しており、お正月にはおせち料理、節句にはちらし寿司や巻き寿司など行事メニューも利用者みなさんに喜んでいただいています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・古い城下町の街中であるため地域住民として馴染みの関係ができています。
- ・竹田市ならではの行事に機会があるごとに参加できる。
- ・食事は三食とも手作りで、調理の音や匂いが五感を刺激し、食事が楽しいものになっている。
- ・職員も一緒に食事をとることで好みやリクエストも把握でき、献立に反映させている。
- ・利用者の思いや、その日の気分寄り添いながら、共に自由に生活できるよう支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	馴染みのある土地で家庭的な雰囲気を感じながら穏やかに暮らしてもらえよう、職員は利用者とのコミュニケーションを図りながら信頼関係を築くようにしている。	理念は共用空間に掲示しており、朝のミーティングで再確認するとともに日々の気づきについて管理者が伝えている。全職員で共有し理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染予防の観点から、外出行事や地域交流の中止、外部者との接触自粛が続き、日常的な交流が出来ていない。	最近ではコロナ感染予防のため利用者自身が地域の人と接することは稀だが職員が近隣職員に声掛けをするように努めている。利用者が亡くなられた折も理事長が葬儀の手配や手伝いを行ったり、地域の一員として関わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	不定期ではあるが、施設近隣の高齢者への声掛けや安否確認、また、体調不良時の健康観察等、普段から施設で実践している支援の延長として地域の高齢者支援に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市内の多くの施設でコロナのクラスター感染等があり、運営推進委員を招集した会議は開催出来ていないが、利用者の近況や施設の事業、行事、現状報告等を文書開催として報告している。	会議は文書開催としており、利用者の様子や事業所の取り組みについて報告し意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは必要に応じて情報交換や相談を行い、また、市からも施設運営に関する情報や研修開催の案内等をメールでいただいている。	市役所が近いので直接書類を持って行ったり相談をすることが多い。市役所からも介護用具での事故事例や情報をメールでもらったりと連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアの実践を心がけており、職員の意識が希薄にならないよう、ミーティング等で防止に向けた話し合いを持つようになっている。ただ、具体的な行為を正しく理解するためにも、継続的な学習が必要である。	身体拘束のないケアについてはミーティングや勉強会で正しく理解し実践している。現在は出勤者のみで勉強会や会議を行っているが、4月からは全職員で勉強会をする計画である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待に限らず、心理的、経済的虐待、介護放棄などがないように全職員心がけている。しかし、虐待に関してもまだまだ勉強不足な点があるため、身体拘束同様に学習機会が必要である。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者があるため、必要に応じてその後見人に相談やアドバイスをいただくようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時に施設の運営方針、利用者がどのような生活を送っているのか等を説明し、利用者や家族に十分納得してもらった上で契約を結ぶようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日々の関わりの中やご家族の来所時に、運営に関する意見や利用者が生活していく上での要望や改善点などを聞き出すように努め、運営に反映するようにしている。	今年度は家族会の開催ができなかったが、面会時に利用者の日常の状態を伝えるとともに家族の意見を聴いている。来所の少ない家族には電話で現状を知らせ、運営に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	就業する中で運営に関する意見や提案を収集し、それを管理者判断で実施(実現)可能と判断すればすぐに実行し、管理者判断の範疇を超える部分については、代表者へ相談し可能な範囲で運営に反映させている。	月1回の職員会議で意見を聴く機会を設けている。日常の関わりの中での気づきや意見を聴き反映させている。職員の要望、意見は管理の判断で実践できるが金額によっては理事長の決済でホールにヒーターと空気清浄機を購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績に応じた賞与への反映、研修受講者への手当の支給等を通じ、職員が向上心を持って働けるよう評価している。また、希望休日が取りやすいように有給取得の促進や指定休日制度を取り入れ余暇の充実を図ってもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員に利用者支援に関する自己評価をしてもらい、その採点が実際と比べてどうか客観的に判断する機会を設け、管理者と職員が共に成長して行くべく話し合いをするようにしている。今後は職場内研修の導入も検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の小規模事業所連携事業に加盟し、研修開催や職員交流を行っていたが、現在はコロナ感染予防のため活動が休止になっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初に抱える利用者の不安や孤独感、帰宅願望等を少しでも緩和すべく、職員側から積極的に話し掛けたり、思いを汲み取りながら不安解消につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設でどのような生活をしていきたいのか、どのような不安があるのか本人や家族の意見や要望をヒアリングし、安心して入所後の生活ができるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が必要としている支援、施設利用以外に必要なと思われるサービス(通所リハ、認知症デイ等)の利用が出来るよう柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の尊厳を損なうことなく、同じ空間、同じ時間を共にする者同士として意思疎通を図りながら信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて、本人の生活の様子や体調などを家族に伝え、今後必要となってくる支援や医療的ケアについて話し合いながら本人を支えていくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルスの蔓延で、ここ3年間は外部者との接触の自粛(シールド越しでの面会は可能)が続いており、十分な支援が出来ていない。	最近まではシールド越しの面会を実施していたが、市より条件付き面会緩和の通知が来たので、美容院への外出や理容師に来てもらうことなどを計画している。また、職員の携帯電話で家族と利用者が話したり手紙を出すなど家族との絆を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自由に交流してもらうことを推奨しており、控えめで言葉をあまり発しない利用者に対しては、自然と他者と関りが持てるようなレクやプログラムを取り入れ孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去予定者の転居・転院先の情報収集から入所手続きまでを代行したり、退所後も必要に応じて本人、家族の要望や相談があれば、いつでもフォロー出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から、どのような暮らしをしてきたのか、これからどのような暮らし方を望んでいるのか意向の把握に努めている。それが困難な場合は日々接する中で本人の思いを推し量るようにしている。	日常の関わりの中で思いを把握し、情報は周知している。家族が利用料の支払いに来所した際や、電話などで家族の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や馴染みの暮らし方について本人や家族にヒアリングしているが、まだまだ十分に生活歴を活かした支援が出来ているとは言えない為、更に改善が必要である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムやパターン、心身状態の変化や力量等、日々の関りの中で現状把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が抱える課題がどの程度解決されたのか、新たな課題はないかなどモニタリングにてケアマネを含めた全職員で話し合い、本人・家族の意向も取り入れながら介護計画を作成している。	面会時に利用者の状況を伝え、家族の意見を聴くようにしている。来られない家族には定期的に電話で確認を取り、利用者の現状を伝え意見を聴き、運営に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットの経過記録(申し送り)や業務日誌にその日の様子や心身状態を記録し、全職員で情報共有しながら支援内容を検討したり介護計画の見直しに反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存サービス以外には、通院同行や美容院同行、生活用品の買い物代行など、利用者が暮らしていく上で必要と思われるサービスには柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フォーマルな地域資源とは別に、地域で開催される多くの行事や交流広場への参加をしていたが、現在はその殆どがコロナの影響で休止になっており、インフォーマルな面で十分な支援が出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による月2回の往診を受けており、体調面に変化があった場合の相談や急変時の対応も24時間体制で受けられるようにしている。また、診療科目によっては専門医への紹介もしてもらっている。	利用開始時にかかりつけ医の希望を聞き、全員事業所の協力医になっている。月に2回訪問診療があり、夜間、休日も対応できる。受診は職員が対応し家族に報告しているなど適切な医療が受けられる体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康観察や関りの中で気づいた身体状況の変化をかかりつけ医院の看護師に伝え、必要に応じて適切な受診を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医師、看護師、相談員との情報交換、また家族の意向も取り入れながら治療方針から退院まで安心して治療が受けられるようサポートしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人、家族から終末期をどこでどのように迎えたいのか意思確認を書面で行っている。実際に重篤化が進み施設での生活が困難になった場合は、医師、家族、ケアマネ等と話し合い、改めて終末期の迎え方を検討するようにしている。	事業所で看取りは基本的にしていない。重症化した時には医師の判断で家族と話し合い、病院へ転送している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍以前は救急救命講習に参加し急変時や事故発生時の対応を学んでいたが、現在は講習会が開催されていないため、施設内で緊急時の対応について定期的に話し合い職員全員で共有するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の避難確保計画マニュアルと職員連絡網を作成しており、災害時に職員が混乱することなく避難活動が出来るようにしている。	消防訓練は年2回実施していたが、コロナ禍で現在は行っていない。職員のみでの通報訓練は実施しており、また3日分の備蓄その他 水やガスコンロなども準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に接する際は穏やかな口調で声掛けを行い、尊厳を損なうことがないよう指示、指導的な言葉を使わないよう心がけている。	理念の中に示されており、毎朝唱和している。特に尊厳の保持と接遇について重視している。何気ない発言があったときは職員間で注意しあい誇りやプライバシーを損ねないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の利用者との関りの中で、発せられた言葉や思いを敏感に受け取り、どのような思いや希望があるのか推し量った上で、可能な限り自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムやペースを尊重しているが、業務に追われて職員の都合を一部優先してしまうこともある。1日をどのように過ごしたいのか可能な限り利用者の希望を優先しており、思いをうまく表出出来ない利用者に対しては、いくつかの選択肢を提示しその中から選んでもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗顔、整容、また更衣の際も着衣の乱れがないよう、その人の力に応じた支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の好きなもの、苦手なものを考慮しながら、毎日手作りの食事を提供している。また、行事や記念日には利用者の好きな巻きずしやちらし寿司を作り、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	三食とも手作りの食事を提供している。基本的に職員も同じテーブルで一緒のものを食べるため、会話の中から食事の好みなどの把握もできる。職員の食事に関しては食事手当の支給もある。片付けなどで利用者も一緒にできることを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量をタブレットに記録し、不足している利用者がいないか一目でチェック出来るようにしている。特に水分摂取量の少ない利用者には、お茶以外にもジュースやコーヒーなど飲みやすいものを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは本人の力に合わせて見守り、一部介助、全介助と毎食後職員が立ち合い口腔衛生を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄リズムやパターンを把握し、時間に合わせてトイレ誘導の声掛けをし、排泄の失敗を減らすようにしている。	トイレでの排泄を基本に個々の排泄パターンを把握し声掛けを行っている。日中はおむつ利用者はいないが、夜間のみ本人が希望した時だけ使用するなど個々の状態に応じた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促すと同時に、毎朝ヨーグルトを召し上がっていただくなど飲食物の工夫をしている。また、運動不足にならないように毎日ラジオ体操とあわせて、リズム体操を取り入れるなど楽しみながら運動出来るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日と時間は決まっているが、利用者の体調や気分に応じて柔軟に入浴タイミングを合わせている。	基本的に入浴日と時間は決めているが、個々の気分や体調に合わせて柔軟に対応しており、利用者も季節の柚子湯なども楽しみにしている。入浴を嫌がる人には声掛けや誘導の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜の就寝時間や昼寝をするかしないかなど利用者の生活リズムに任せている。また、季節や気候に合わせた寝具調整、温度調整など利用者が安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用している薬の説明書を一つのファイルにまとめており、必要に応じて職員はいつでも確認出来るようにしている。また、身体状況の変化等を担当医に伝え、薬の継続や変更等		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時に本人や家族から生活歴に関する情報を聞き取り、本人の得意なこと、苦手なこと、好きなもの、嫌いなもの等を認識した上で、レクの導入や楽しみ事を取り入れるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防の観点から、現在は外出や外部者との接触を自粛しているが、今後の厚労省や市の高齢者福祉課の指針、指導状況を見ながら、外出や面会規制の緩和を図っていきたいと考えている。	最近では少しずつ、事業所周囲の散歩、ベランダや中庭でのお茶会など、外気に触れる機会を増やしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自分で金銭管理をしている利用者はいないが、今後希望する利用者がいれば、買い物支援や金銭の出納管理等の支援を行うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば電話や手紙、年賀状書きのサポートを行い、家族や大切な人に思いを伝えられるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内はシンプルな造りになっており、トイレ、洗面所、浴室等の場所は分かりやすくなっている。また、ホールの壁面には季節に応じた装飾を施したり、クリスマスや正月等の飾り付けをして、季節感を感じてもらえるようにしている。	玄関先には長椅子が置いてあり、共用空間の壁面には季節感や月日のわかりやすい飾り付けがされている。隣室からは調理の音や香りがたどよい、居心地よく家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ禍では施設内で過ごす時間が大半であるため、利用者が少しでも窮屈な思いをしないように、天気の良い日には中庭に出て外の空気に触れられるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の馴染みのあるものを持ち込めるようにしており、写真、置物、テレビ等を自由に設置し、利用者が居心地良く過ごせるようにしている。	手作りの作品や家族写真、カレンダーなどを壁面に貼っており、仏壇やテレビ、使い慣れたソファなどが持ち込まれている。ベッドや家具の配置も利用者ごとに工夫され、居心地の良さに配慮された設えになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内スペースは狭いが、一本の廊下沿いにトイレ、洗面所、浴室、居室が配置されており、利用者が混乱なく生活出来るようになっていく。		